高等学校国語

[三] 次の古文は、亡き堀河天皇に代わり、即位したばかりの鳥羽天皇のもとに作者が出仕している場面を描いたものである。これを読んで(一)～(九)の問いに答えなさい。

御前の臥させたまひたる御かたを見れば、(ア)いはけなげにて大殿ごもりたるぞ、変はらせおはしましとおぼゆる。

一昨年のころに、かやうにて夜昼御かたはらにさぶらひしに、A御心地やませたまひたりしかども、院より、あなかしこ、よくつつしみて、夜の御殿を出でさせたまはで、しばしと申させたまひしかば、つれづれのままに、よしなし物語、昔今のこと、語り聞かせたまひしをり、殿のあとのかたに寄りたてまつらせたまひしかば、そのままにてさぶらはんは、(イ)なめげに見苦しくおぼえしかば、起き上がりて退かんとせしを、①見えまゐらせじと思ふなめりとおぼして、ただあれ。(ウ)几帳作り出でんとて、御膝を高くなして、陰に隠させたまくりし御心のありがたさ、今の心地す。いつのまに変はりける世のけしきぞと、よろづの人たちのそのかみの人ならぬなかに、われば かりありし昔ながらの人、いかに結びおきける前の世の契りにかと、ものの思ひつづけられて、あはれしのびがたき心地す。

明けぬれば、いつしかと起きて、人々、めづらしきところどころ見んとあれど、見して歩かば、いかがものの思ひ出でられぬべければ、②ただはれてゐたるに、御前のおはしまして、いざ、いざ。黒戸の道をおれが知らぬに、教くよとおはせられて、引き立てさせたまふ。

参りて見るに、清涼殿、仁寿殿、いにしへに変はらず。台盤所、昆明池の御障子、今見れば見し人にあひたる心地す。弘徽殿に皇后宮おはしましをし、殿の御宿直所になりにたり。黒戸の(エ)小半蔀の前に植ゑおかせたまひし前栽、心のままにゆくゆくとおひて、御春有哺が、

君が植ゑしひとむら薄虫の音のしげき野べともなりにけるかな

といひけん(オ)も、思ひ出でらる。御溝水の流れに並み立てるいろいろの花ども、いとめでたきなかにも、萩の色こき、咲きみだれて、朝の露玉をつらぬき、夕べの風なびくけしき、ことに見ゆ。これを見るにつけても、B御覧ぜましかば、いかにめでさせたまはましと思ふに、

C萩の戸におもがはりせぬ花見ても昔をしのぶ袖ぞつゆけき

と思ひゐたるを、人にいはんも、おなじ心なる人もなきにあはせて、ことのはじめに漏り聞こえん、よしなければ、承香殿を見やるにつけても、思ひ出でらるれば、里につくづくと思ひつづけたまはんとおしはかりて、③これを奉りしかば、

思ひやれ心そまどふもろともに見し萩の戸の花を聞くにも

思へば、さておなじさまにてし歩かせたまふだに、さおぼすなり、まして、つくづくとまぎるるかたなく思ひつづけんは、おしはかられてぞある。④かくてあるしもぞ、いますこし思ひ出でらるる。

（「讃岐典侍日記」による）

（注） 院＝堀河天皇の父の白河院。　殿＝当時の関白、今の摂政藤原忠実。

(一) ═══線部分(ア)(イ)の語については本文における意味を書き、(ウ)(エ)の語については歴史的仮名遣いで読みを書け。

(二) ～～～線部分(a)～(c)について、それぞれ文法的に説明せよ。

(三) ――線部分A～Cを口語訳せよ。

(四) ――線部分①について、敬語をすべて抜き出し、その敬語の種類、誰から誰への敬意かをそれぞれ答えよ。

(五) ――線部分②について、このときの心情を具体的に説明せよ。

(六) ――線部分③について、

ア 「これを奉りしかば」とはどういうことか、具体的に説明せよ。

イ 作者はなぜこのようにしたのか、その理由を説明せよ。

(七) ――線部分④とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

(八) 平安時代に「女流文学」が生まれた背景について、説明せよ。

(九) この日記が書かれた時代の内侍司の役職名を、官位の高い順に漢字で書け。